

『北斎と広重一風景画の二大巨匠一』



葛飾北斎
「諸国名橋奇覧 飛越の堺つりはし」

大判錦絵揃物の内
神奈川県立歴史博物館蔵

開館5周年を記念する特別企画展「北斎と広重一風景画の二大巨匠一」は、早くも最終期である第3期に入ります。

歌川広重が得意とする街道物の展示で、東海道の2シリーズ「東海道五拾三次之内（保永堂版）」・「東海道（隸書版）」は、岡崎（愛知県）から京（京都府）まで、また「木曾海道六拾九次之内」は、大久手（瑞浪市）から大津（滋賀県）までをご覧ください。

葛飾北斎の作品は、「富嶽三十六景」・「百人一首うばがゑるとき」の一部、第2期から登場している「諸国名橋奇覧」の一部のほか、「諸国瀧廻り」のシリーズから「相州大山ろうべんの瀧」を展示します。

上の図版は、葛飾北斎「諸国名橋奇覧 飛越の堺つりはし」です。絶壁に架けられた橋を、荷物を担いだ男女が渡っています。また、このようなつり橋が実際にあったのかも明らかではありません。現実でありそうでありえない世界を作り上げる、北斎ならではの作品です。

会期: 9月5日(火)～12月3日(日)

第3期: 11月7日(火)～12月3日(日)

毎週月曜日休館

次号は11月15日号

発行日は11月15日(水)です

広報えな No.47

2006年(平成18年)11月1日発行

発行 恵那市役所

編集 まちづくり推進課広報広聴係
岐阜県恵那市長島町正家一丁目1番地1

☎26-2111 / ☎25-6150

<http://www.city.ena.gifu.jp/>

✉info@city.ena.gifu.jp

編集後記

先日、ふと時間が空いたので、知り合いの顔を見に太平洋沖まで車を走らせた。10月も半ばを過ぎようとしているのに、日中の日差しはまだまだ厳しいなと感じながら、のんびりドライブ。2時間半ほど走ると、風の香りの変化が始まる。「海の香りだ！」海へ向かうといつもながら、この香りにうれしくなる。海は、やっぱり好きだな。知り合いは沖のそばで造船業を営んでいる。以前伺ったときは、とてつもなく大きな船を作っていた。その船はすでに完成し、名古屋港にお目見えしたようだ。今はまた違う漁船の製作に忙しそうだ。しかし相変わらず元気そうでうれしかった。今度は恵那の山の香りを教えてあげると伝え海を後にした。④